

第3回城下のまち鶴岡将来構想策定委員会（会議録）

- 日 時 令和3年3月19日（金）13時30分～15時45分
- 会 場 鶴岡市役所 6階 大会議室
- 出席委員 上木 勝司委員長、矢口 哲也委員（オンライン参加）、加藤 捷男委員、上野 隆一委員、前田 直之委員、國井 英夫委員、丸山 貴光委員、酒井 忠順委員、宮澤 巖委員、高坂 信司委員代理、三浦 秀人委員、伊藤 秀樹委員、佐々木 邦夫委員、阿部 貴一委員、秋野 公子委員、大久保 紀子委員
- 欠席委員 佐藤 泰光委員、山口 朗委員
- アドバイザー 東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ
株式会社 umari 代表取締役 古田秘馬（オンライン参加）
内閣府 クールジャパン地域プロデューサー 陳内裕樹（オンライン参加）
- 事務局 建設部長、企画部次長（兼）政策企画課長（兼）酒井家庄内入部400年記念事業推進室長、商工観光部観光物産課長、教育委員会社会教育課文化財主幹、建設部都市計画課長、建設部都市計画課城下のまちづくり推進主幹、企画部政策企画課主査、企画部地域振興課地域振興専門員、商工観光部商工課主事、商工観光部観光物産課観光物産専門員、教育委員会社会教育課文化財主査、建設部都市計画課都市計画主査、建設部都市計画課専門員（都市計画係）3名
- コンサル (株)国際開発コンサルタンツ 2名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 4名
- 次 第
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 協議
 - (1) 駅前地区まちづくりの方針・機能等について
 - (2) 質疑応答・意見交換
 4. その他
 5. 閉会

会議概要

1. 開 会

- ・ 建設部長による開会宣言
- ・ 出席の確認
- ・ 配布資料の確認

2. 挨拶

… 皆川市長の挨拶 …

3. 協議

議長：委員長

《委員長》

- ・ これより協議に入る。協議事項は「駅前地区まちづくりの方針・機能等について」である。
- ・ 本委員会は設置要綱により、今後のまちづくりの基本方針の協議を目的に設置されており、「歴史文化資源の保存継承及び鶴岡駅前から鶴岡公園までの中心市街地活性化基本計画区域におけるまちづくり方針の策定に関わる事項の協議」を所掌事項にしている。
- ・ これまでの 2 回の委員会で駅前地区の整備について先行して検討してきた。本日は、次回の第 4 回委員会での駅前地区整備方針のとりまとめに向け、駅前地区の全体的な整備に関わる基本イメージについて検討することを目的にしている。
- ・ まず本日の協議議題に関わり、事務局より説明願う。

(1) 駅前地区まちづくりの方針・役割について

＜事務局＞

… 資料 1、2、3 についての説明 …

《委員長》

- ・ ただ今説明のあった「全体構想の構成に関わる提案」及び「委員会審議の進め方」については後ほど協議して頂くこととし、その前にプランニングチームより、これまでの議論の経過や方向性を踏まえて提案があるとのことなので、資料に基づいて説明いただく。

＜アドバイザー①＞

… 「プランニングチームからのご提案について」の説明 …

＜アドバイザー②＞

- ・ 国が地方創生の柱としてデジタルを進めようとしている。ポイントは「高校生はこどもたちではない」ということである。高校生が主役で大人たちを巻き込み、リーダーシップをとって次世代のまちづくりを担うことが出来る。
- ・ デジタル世代の高校生と高齢者世代とは距離があることが課題だが、高齢者にスマートフォンの使用方法を高校生が先生役となって関わることで幸福感につながる。

- ・世界につながるという点も大きい。鶴岡は食、観光、歴史もある大変素晴らしいまちだ。観光のパンフレットの代わりに YouTube の番組を作り、市の資産にしていくことも出来る。また商店街のCMにも応用可能であり、公民館に集う色々な教室を録画し、見返すこともできる。
- ・無料で見るためのプラットフォームはあるので、高校生たちで作れる。彼らの個人的興味関心が鶴岡市民のためになり、世界の方々もそれを見ていると数字でも分かるので励みになる。
- ・我々人類はコロナ禍で巣ごもり状態になり、インターネットでつながりだした。その時にソフト事業が生きてくる。お金を掛けなくても鶴岡の誇り、魅力を伝える伝道師を彼らにやっていただく仕組みづくりを進めることがこれからのまちづくりのヴィジョンレベルで必要ではないか。世界中がピンチと言われているコロナ禍だからこそ、デジタルのまちづくりとした、令和の藩校が生きる。
- ・鶴岡の市民のために高校生が主役になることについて、皆様にご議論いただきたい。

<アドバイザー①>

- ・誰も使っていなかった場所を使うだけでは「-」を「0」に戻すだけだが、使いながらさらに先に進めようというプランをデジタルの活用に期待できるのではないか。
- ・実現したら鶴岡モデルといわれるような初めての試みになるのではないか。
- ・高校生にただ部屋を開けておくだけでは持て余してしまうだろう。どこが母体となって、どんな風に運営するのか。前例や他地域の例を示す。

<アドバイザー③>

- ・大学が少ないエリアから高校生が出ている場合が非常に多い。そのとき、高校生時代に地域で自分の役割があり、地域との繋がりがあると戻ってくることが多い。
- ・三重県にある「まごの店」という高校生レストランの取組みでは、就職率が高いことが評価されている。
- ・島根県の隠岐島の海士町あまちょうにある高校は、県外の高校生を学ばせる島留学という試みをしており、島でまちづくりの一端を担ったという自分の中での成功体験を持ち、自分の役割を認識した高校生たちは大学を出てからも「もう一回戻りたい、関わりたい」と考える。
- ・その時大事なものはメンター役で、高校生に任せきりにするのではなく、彼らの主体的な考えを生かすようなメンター役が必要である。芸工大の大学生などが間に入って支援するなど、枠外の人たちと関わりながら高校生を中心とする枠組みが必要である。
- ・ターゲットの明確化により企業の連携もできるようになる。色んな全方位の施設をやってしまうと、なかなか企業としてもサポートしづらい。

《委員長》

- ・事務局の提案は総合的なものなので、後ほど改めて協議いただくこととし、ここではプランニングチームからのご提案について、ご意見、ご質問を受けたい。

《委員①》

- ・「酒田の女子高生はみんなSモールに行く」と言われているほど、Sモールには女子高生が多く集まる。全国ブランドの魅力ある店舗が入っているからかもしれない。
- ・Sモールには1日5,000～6,000人の入館者がいる。駅前のマリカとどう連携づけて

いくかは、行政の課題であると同時に商業側の課題でもある。こういった役割分担をしていくか、双方が並び立つようなかたちにしなければならない。

- ・大都会の駅と鶴岡のような田舎の駅では、経済的な重要性和動態上の重要性、現実的な考え方をしていけないと、机上の空論で終わってしまう。非常に良いプランニングが出来ても、肝心のターゲットがつかまらないと感じてしまっただけでは何の意味も無い。
- ・行政の皆様からも周辺にある機能を持つ施設とマリカとの連動制を民間側に啓蒙していただきたい。鶴岡市の中で民間の声を吸い上げ、地域の人々が分かるように SNS でもきちんと発信することが大事である。
- ・地元の皆様とマリカの今のようなご提案を機能させるには、地元の人たちと対話する必要があり、我々も非常に関心を持っている。

《委員長》

- ・ただ今のご意見については、後半に市の提案について総合的に協議いただくので、そこで改めてお話いただきたい。ここでは、プランニングチームからのマリカの活用についての具体的な提案についてご意見をいただきたい。

《委員②》

- ・酒田駅前の「光の湊」の話が出たが、図書館が来年度にオープンする。実際に酒田光陵高校の生徒が様々なことをやっており、高校生自らの体験を誇らしげに語っていることと、そのような子が将来帰ってくる確率が高いのは感じる。高校生を中心というコンセプトは素晴らしい。
- ・様々な世代との交流の中で、年配の方には立体の駐車場はハードルが高い。世代間交流や年配の方が来やすくなるようなアイデアはこの話で出たのか。

＜アドバイザー①＞

- ・まだ出ていない。マリカが当時ショッピングモールとして華やかだった頃は、立体駐車場でも良かったのだろう。平場の駐車場しか行けないとなると、最初から作り直すしかなくなるので、リノベーションでうまい方法を取るしかない。
- ・S モールは商業施設で今回我々が考えているのは複合文化施設的なものである。両方で食い合いをするのではなく、どちらにも用事があれば良い。世代間で駐車場の問題が起こることは考えてはいるが、まだ具体的な考えは無い。

＜アドバイザー③＞

- ・交通はハードで解決するよりは、様々な地域交通全体で考える問題ではないかと思う。特に高齢者の方で立体駐車場が厳しいということは、そもそも交通弱者になっている可能性もある。
- ・例えば、オンデマンドバスを共有し、学生も年配の方も使えて半径 2 km だけ動くようなバスがあると良い。
- ・また立体駐車場の空きスペースを色々活用できるのではないか。

＜アドバイザー②＞

- ・デジタルの視点においても対面は今後も重要になってくるだろう。一方で“鶴岡市民もデジタル慣れをする”ことで自宅に居ながら、スマートフォン 1 つあればマリカにいる高校生と繋がる事が出来る。これから技術革新も進むので、駐車場が不便であ

ってもインターネット技術によって補い、余りあるほどのメリットを受けることが出来る。「交流には“非対面”という交流もある」とご理解いただく市民の方も増えるのではないかと。

《委員②》

- ・庄内交通では、バスに IC カードを導入するという動きがある。例えば、高校生の定期を IC カードにして乗り放題にしようとするのと同様に、大人も本文化施設を応援する人たちや免許返納者も割引がきくなど、IC カードを持つ人への特典があると良いのではないかと。
- ・街なかや駅前だけではなく、市全体の経済が活性化するような、あるいは様々なビッグデータとして活用できるような、そういったものに発展する可能性がある。
- ・リアルではなくても繋がれるというのが、将来的には実際にまちに人が集まりたくくなるような仕組みがこれから出来るのではないかと。

《委員長》

- ・「高校生対象」のみを強調しすぎると、放課後と休日の利用しか見えない。他の世代も含めて考えた方が良いのではないかと。高校生に活躍してもらいつつ、他世代も集えるような場をマリカには期待したいが如何かと。

<アドバイザー①>

- ・今の状態では、朝から晩まで人がいないので「一日中使っていただく施設」という考え方は捨てている。休みの日と放課後だけでも人がいるというところから始めたい。そうすると、昼間の使い方が自ずと出てくる。高校生がいない間、市民団体や会議に使われることになるので、今のところ高校生の時間に合わせて、そこだけでの 100%稼働を目指したい。

<アドバイザー③>

- ・このようなプロジェクトや施設のハード整備でありがちなこととして、「これさえ出来れば全ての問題が解決する」という期待がどんどん膨らみ、結果的にあれもこれも変えようとして、何の計画だったか分からなくなってしまうことがある。選択と集中ということがまずは必要である。まず、何の為の場所かを明確に出し、その使い方が成長することで、複合的なところに広がる。結果的に「今までと変わらなかった」とならないよう、まずは 1 個ブランドをつくるということが重要である。

《委員長》

- ・「あれもこれも」と言っているわけではない。公設の施設なので、例えば子育て世帯には着目して、一部そういった要素も入れるなど、今後の方向性を含め、先を見越した位置づけが必要なのではないかと。

<アドバイザー①>

- ・プランニングチームからは極端なものが出る。そこに皆さんから肉付けを願う。

《委員③》

- ・令和の藩校で、鶴岡スタジオをつくるというのは非常に良い。前回の会議でも高校時

代に発表する場があると嬉しいと話した。未来に向けたイメージを持った継承施設、文化施設のようなイメージを持っている。

- ・注意したいのは、高校生は良いことばかりではなく、悪い要素を持った活動にエネルギーが向いてしまう恐れがある。その辺のコントロールやケアをあらかじめ用意しておいた方が良いのではないか。
- ・YouTube のスタジオを作って世界に誇れるような施設を置いた場合でも、それほど費用は掛からないが、鶴岡全体としては Wi-Fi 環境をどのようにするのかなど検討が必要ではないか。既存のインターネットの通信網は、結構弱かった。これから 5G が広がって行くときに、インフラも色々準備していくことが必要ではないか。
- ・ハードウェアは物理的なものなので費用も時間も掛かるが、ソフトウェアはものすごいスピードで発展できる。ソフトウェアの投資を先行して行うべきである。
- ・藩校という言葉の意味として「将来、自分たちはどうなりたいのか」を語れると非常に良い。
- ・将来にわたって継続していくためにはバックボーンとなる目的や動機は、過去や今ではなく、将来に着目したものにしていかないと主体が存続するのは難しくなってくる。

《委員長》

- ・プランニングチームの提案に対しては意見が出尽くしたようなので、次に進ませていただく。事務局提案の「委員会審議の進め方」と「駅前地区の全体構想に関わるまちづくりの将来像、方針、導入機能、ゾーニング」について協議いただきたい。

《委員④》

- ・前回、「既存の物を活かすべきは活かす」という発言をしたが、自身は鶴岡市の未来へ向けたまちづくりとして、むしろ壊すものは壊して、保存できるものは残すという立場である。
- ・「未来の鶴岡をどう捉えてもらうか」という視点は確かにその通りであり、未来を描くという点で策定委員会は重要である。
- ・賑わい創出、動態人口が増えるというのは、トータル的に考えて、デザインしていかねばならない。
- ・ジャスコ撤退や再開発としての第三セクターのまちづくり会社の閉鎖があり、駅前は閉ざしている。それを庄交グループさんが大変な努力をしたので、土日は満杯になっている。その点を活かし、駅前は現状を補完するのが良い。
- ・その補完には図書館の移転という視点もあるが、マリカは約 40 年間ずっと運営してきた、内部設備が痛んでおり、その現実を捉えて、持ち分割合の多い鶴岡市がリードして補修費を掛けてほしい。
- ・逆にマリカ西館のプラザは誰もおらず、トイレ利用だけの空間になっている。東館も空調の改修時期に来ている。そういう実態を真剣に捉えていかないといけない。
- ・失礼ながらこの会議は「城下のまち」とあったので、どうあるべきかを絵に描いてみた。マリカ東館だけ描かせていただき、後方はジャスコ撤退跡地が描いてある。
- … 委員持ち込みのイメージ画の説明 …
- ・酒田の「夢の倶楽」は再生の仕方が素晴らしい。駅前の米蔵も鶴岡がもっと大事にすべき風情だと思う。耐震構造、防火構造、防犯対策を施し、商人・商店が協力して、100 年を超える鶴岡の米蔵とその景観を残し、城下の街並みの 1 つにしていく必要があるのではないか。

- ・文化施設として、いかに資料を保存していくかという問題もある。資料の保全・保管の収蔵庫が足りない。そういうことも含めてギャラリー化していく。そうすべき歴史的・文化的素材が鶴岡にはある。
- ・鶴岡の100年後を見て、この10年でブレークスルーしていくような視点が必要だ。人通りが少なくなった場所を盛り返すには、文化的な城下町の風情でまちづくりをする必要がある。
- ・大卒のハード面の駅前まちづくり方針としては、マリカ全体を取り壊す方向性での再構築と歴史的遺産である駅前倉庫の保全が重要である。

《委員長》

- ・設置要綱で「この委員会の所掌事項として歴史、文化資源の保存継承および駅前地区から鶴岡駅に至る市街地活性化基本計画区域におけるまちづくり方針の作成」と謳われているので、全て議論の対象となる。

《事務局》

- ・将来像をお示しいただいたが、実務的に、この建物を構築するためには、どのようなかたちで誰が負担していくのかなど課題が出てくると思う。
- ・現在の西館等々についても権利関係がある。権利関係について、今現在のことで結構なのでお話いただきたい。

《委員④》

- ・「マリカ西館のあり方、今後どうすべきか」を議論するのに約3年を要した。
- ・西館は、権利者が数名、事務所等があり、テナント入居者がいらっしゃる。理事会員構成は3~4名程度、鶴岡市からも多数、理事会に出席いただいている。
- ・マリカ西館の長期ヴィジョンを検討会議によって検討して、皆さんの合意形成を図って、どうしていくべきかを協議したい。
- ・マリカ東西館の解体には数億円かかる。そういうことを考えると、小手先ではなくトータル的に、鶴岡市建設部で算定していただきたい。街全体、米倉庫も含めた駅前周辺をどういう風にしたらいいかを検討してほしい。

《事務局》

- ・先ほど「未来を見据えて議論することが重要だ」とお話があった。未来の時間軸をどう取るかが非常に重要である。
- ・マリカの東館・西館は昭和62(1987)年から34年経過している。税法上の耐用年数は47年で、今から13年後の2034年が耐用年数になっている。立体駐車場(パークビル)は、長寿命化工事をしていて2047年までは使える見込みである。
- ・2034年にさらに投資をしないと、東館・西館は使えるかどうか分からない。
- ・東館は全て市の所有になっているが、色んな方が入っている。また1階のFOODEVERは国庫補助をいただき整備している。期限前に廃止した場合、国庫への返還義務を負うことになる。
- ・西館も区分所有であり、市が33%を所有している。この区分所有権者が10人程度で、権利関係の問題があるので、現実的な解決を考える必要がある。
- ・提案は大変素晴らしい絵だとは思いますが、誰が事業主体となり、どういう負担で行うのか、また現在の権利関係をどうするかが大変難しい。税法上の耐用年数や60年使え

る場合のランニングコストなどの試算は出来るが、現在の権利関係は複雑になるだろう。その為、ただちに移行できるかどうかについては、事務局で検討する。

- ・将来構想は15年から30年先を見据えたもので、第4回目に具体的な協議をしようと考えていた。今後の大規模改修があると思うが、10年～20年くらい先になる。社会的な変化も踏まえこれから整備を考えていく場合、それなりの時間も要する。
- ・今回、構想の中では施設の再整備ではなく、ソフト事業を先行している。

《委員長》

- ・今までの議論を整理すると、まず「学び・活動のエリアの中核となるマリカが老朽化していることへの考慮が必要だ」との指摘があった。
- ・いま一つは、まちづくりの方針に歴史・文化の継承という視点をどう位置づけるのかという問題が残されている。これらの点について、事務局はどうか。

《事務局》

- ・我々としては駅前にこのような機能を考えており、駅前エリアとしてSモールから駅、商店街を考えている。民間との対話も含めて、色々と協議していきたい。

《委員①》

- ・イメージ画の提示があったが、この委員会で揉むのとは違うベースでやらないといけない。これだけ先生方が色んな知恵を出してくれて、ソフトをどうするかと議論しているのだから、ここにハードが入ってしまうと話がやり直しになってしまう。
- ・高校生が地域で活躍するようになってきた。高校生が集えて、新しい発想で情報を発信していく、地域と繋がっていくというのは、楽しみなプランニングである。
- ・鶴岡は、非常に文化人の多い地域である。一生涯勉強だという方々が非常に多く、そういった人たちが今まではNHKの文化センターのカルチャースクールで学んでいたが、場所が変わり、その数が段々少なくなっている。また、鶴岡市で芸術文化協会に所属する団体は約70に及ぶが、高齢化という共通の課題を抱えている。
- ・学びたいという人たちに場所を提供するという意味で、皆が集えるのにちょうど良い場所として1つの候補になり得るのではないかな。
- ・高校生と年配の方々との交流は、大変意味がある。Sモールも、高齢者や地域の人たちの学びのために、スペースを有効活用したい。ショッピングだけでなく、学びで集えるような場所に少しずつ変えていこうと計画している。マリカも東館中心だろうが、学びあえる場所にしてほしい。
- ・芸文協に所属している団体は、ばらばらに点在している。10～20くらいの団体をマリカのような場所に集約して、鶴岡市の支援により比較的安い維持費で自分たちの活動スペースを確保できれば、社会的意義もある。先ほどのプランニングチームのご提案とも親和性がある。
- ・芸文協含め、学びたい人たちのニーズはあるので、それを有機的に結びつける。それは、駅前地区の商店街の活性化にも資することになる。行政でも検討いただきたい。

《委員長》

- ・今のご意見は、まちづくり方針の方針3のところで位置付けることが出来る。

《委員②》

- ・確かに交流も大事だが、早い時間帯に大人がサークル活動をしている場に若い人たちが入っていくのは相当ハードルが高い。「3時以降は高校生主体」と決めて、高校生が「年配の方たちに来てください」とイベントをするのは良いが、そこを自由にしてしまうと大人中心の場所になってしまう。あくまでも「高校生主体で運営する」というプランニングを外さないでほしい。

《委員長》

- ・高校生主体の運営ということで、運営責任を高校生に持たせては大きな問題が出てしまう。運営そのものはどこか責任の持てる機構が担った上で、高校生に大いに活躍してもらおう。

《委員⑤》

- ・鶴岡は中心地に学校や文化施設が集まっている。この駅前のプランが駅前のみの単独のプランにならないようにしてほしい。
- ・遠く離れた場所においてもデジタル化によって、みんな同じ場所にいられるようなまちづくり、施設づくりが良い。

《委員長》

- ・プランニングチームは、全体をネットワークで繋げようとしている。その為に、まずはマリカに拠点を築こうと考えている。

《委員⑥》

- ・それぞれの施設の連携をきちっと図っていくことで、エリア全体を1つの施設と考えた方が良い。
- ・今、国ではウォークブルを推進している。東北では雪の問題があるが、屋内それぞれの施設を結びつけて屋内ウォークブルとしてはどうか。
- ・今それぞれの施設は歩道も無いような道でしか繋がっていない。おそらくマリカに行く人はマリカにだけ行き、Sモールに行く人はSモールだけに車で行くだろう。全体を一体と考えられるような整備が求められる。
- ・旧ジャスコ跡地が多目的広場となっている。マリカ東西館の機能の補完とあるが、他都市を見る中で、ただきれいに整備しただけの広場は、イベントでしか使えない。広場を作る場合は、日常的に使うシステムを投入しなければならない。ここはマリカ東館に隣接しているので、学び・活動の屋外活動エリアとして生かしてはどうか。

《委員⑦》

- ・全体的な話として、高校生を主体として中心市街地（駅前）を活性化するという方針は、すごく分かりやすく、他の委員も概ね賛同していると思う。
- ・今日はハードとソフトの話が出てきて、プログラムやアクティビティ、行動がどういう場所に紐づくのか、それがマリカで良いのかという議論があったことは良かった。
- ・都市デザインやアーバンデザインに携わっているので、「街全体という視点が大事だ」という委員の発言に共感する。
- ・委員の「街なか移動と駅前拠点をどういう風に連携していくか」という話もすごく良い点をついていた。一昨年、鶴岡市の公共交通再編に携わったが、なかなか難しい状況だと思う。

- ・栃木県の小山市は都市の規模がほぼ一緒だが、バスの乗り放題チケットを発行し、1ヶ月の定期代を1/3くらいまで安くしている。それによって公共交通利用者がかなり増加し、街の中がウォーカブルな街として成功した。これは鶴岡市にとっても参考に来る良い事例ではないだろうか。
- ・サードプレイスの話もあったが、簡単に言えば高校生の居場所づくりである。お金を払わなくても気持ちよく時間が過ごせる場所が街なかにはあり、それが通行人から見えるという環境が重要なのではないか。
- ・私自身が鶴岡のまちを回っていて、高校生が集まっている場所は荘銀タクトのロビーやSモールであり、集まっているのが見えるというのが重要だと思う。1ヶ所に集まって閉じてしまうのではなく、そこが少し見える、溢れ出す環境が作れば高校生を主体にしたまちづくりが成功するのではないか。
- ・先ほどハードについて話があったが、ハードは話をまとめるのに時間が掛かるので、フェーズ0、アーリー・アクティベーション (early activation) 、とりあえずやってみるということもすごく大事なのではないか。
- ・一番簡単なのは、気仙沼市役所のように無料でWi-Fiが繋がるようにすれば高校生がすぐに集まる。デジタルと繋がるという点とも親和性がある。
- ・「教育・学び」という点については藩校というキーワードはすごく良い。「まちで」育てるところから、「まちが」、最後には高校生自身が「まちを」育てるという3段階のステップを考えると、時間軸がちょうどいい。
- ・ソフトとハードをいっぺんにやろうとすると、すごく時間が掛かって、せっかく議論したにも関わらず、何もアクションが起きないという事態が危惧される。実験でも良いから、今話し合っていることが実行出来ればと思う。

《委員長》

- ・時間を過ぎてしまったので、「なお一言話したい」という方がおりましたら、最後にお一人だけ発言いただく。

《委員④》

- ・今回が3回目で、中期的・長期的役割な整理が4回目にある。今回が全体の将来像を検討するという意味合いでの会議になる。そこで、私はハード面の現状と長期的な視点から費用対効果をどうしていくべきかを問題提起させていただいた。
- ・この駅前については、駅前周辺のジャスコ跡地、駐車場、米倉庫も包括して検討することは、事前に把握している。私共、運営している立場の実状も踏まえたかたちで進めてほしい。
- ・例えば、倉庫は100年超えている物に対して、他の市町村での実例でどのくらい時間と費用が掛かるのかを事務レベルで検討して、詳細資料を添付していただけると有難い。また東館・西館は、維持修繕・管理にどのくらい費用が掛かるのか。5年、10年というスパンで出していきたい。
- ・先生方からのご指摘は、鶴岡を若い視点で変えていく、費用対効果を考慮した上でのご指摘だと思う。私もソフト面について反対はしない。しかし、現場は本当に大変なのだということを申し述べさせていただきたい。

《委員長》

- ・ハード面を含めた抜本的なプランを練ることは現実的ではない。

- ・マリカがしばらくは補修で利用可能だということなので、長期的プランでハード面も含めて全体的な構想を練っていく必要はあるものの、とりあえずは、十数年先を見越して「どう動き出すのか」についての合意を得たい。
- ・時間も限られてきたので、ここで協議を終わらせていただく。最後に委員の皆さんの意見等を踏まえて、アドバイザーに一言、また事務局からも何かありましたら発言いただき、最後に皆川市長よりコメントをいただきたい。

＜アドバイザー①＞

- ・プランニングチームは、客観的に他の事例を踏まえながら、しがらみの無い立場で極端なアイデアを出すことが使命である。出してみたら、色んな意見が出て、本当に等身大の議論になっているので良かった。

《委員長》

- ・事務局はいかがか。

《事務局》

- ・イメージ図に関しては、「全体的な」というお言葉をいただき、駅全体、まち全体を結びつけながら検討していきたい。

《委員長》

- ・市長、一言コメントをお願いしたい。

《市長》

- ・プランニングチームの皆様から、高校生を主体にした「令和の藩校」というキーワードを出してもらった。高校生を生かすのは、市役所や地元の間人だけでは難しかった。それに違和感のある方もいたかと思うが、大分、理解が進んできたと思う。
- ・今日は、「ウォークブル」というキーワードがあり、まちづくり全体の視点についてご指摘があった。時間の都合上、資料の示し方が狭くなっているかもしれないが、もちろん国際村などの施設も含めて考えている。
- ・入部 400 年にふさわしい議論展開をしなければならぬ。アドバイザーから「次回が難しい」という話があったが、しっかり準備しなければならぬ。
- ・行政で進める場合、実行可能な案を示していく必要がある。時間軸をどう取り、財政支出がどうなっていくのかを次回までにお示ししたい。

《委員長》

- ・本日は大変活発な議論となり御礼申し上げます。
- ・事務局提案を否定した意見は無く、むしろ、それを補強するような発言が多数あった。
- ・S モールとの関係など、鶴岡市全体としての機能の連携という視点で捉える必要がある。
- ・「歴史文化の継承という視点を入れるべきではないか」という意見があり、将来構想の基本方針にその点を位置付けておくことが重要である。
- ・本日の議論を踏まえて、次回、次々回の委員会で整備計画を確定し、具体化して行く訳であり、本日の委員の皆さんの意見を事務局とよく検討し、次回委員会での駅前整備方針の検討に活かしたい。

- ・ それでは、この事務局提案にご了承いただいでよろしいか。
… 異議なし …
- ・ また、プランニングチームの提案についてもよろしいか。
… 異議なし …
- ・ ご了承有難うございます。以上で議長役を終わらせていただく。

進行：事務局へ

4. その他

… 意見・質問等なし …

5. 閉会

- ・ 建設部長による閉会宣言